

授業改善推進プラン【 5年 】

令和7年度 小平市立小平第四小学校

	学習状況の実態及び課題	具体的な改善策(いつまでに、どの程度)
国語	・習った漢字や同音異義語を漢字の意味と関連付けて考えて覚えることに課題がある。 ・目的、意図に沿って文章を読み取ることに課題が見られる。 ・自分の考えを文章で表現することに苦手意識がある児童がいる。	・発問を工夫したり、見通しをもてるよう工夫したりして、児童が主体的に学習できるようにする。 ・漢字テスト前に配布する練習用プリントに既習学習も入れ、練習できるようにする。 ◎対話活動を効果的に取り入れ、自分の考えを表現しまとめるように指導する。
社会	・日本の都道府県や、身近な国々など基礎的な知識の定着に個人差がある。 ・図やグラフを正確に読み取り、資料を活用して課題解決したり、総合的に考えたりすることに課題がある。 ・日本の産業の様子や特色に関心をもち、意欲的に学習に取り組む児童が多い。	◎課題解決型の学習の流れを定着させる。 ・課題解決の際に調べる目的や視点を全体で確認し、適切な資料を活用できるようにする。 ・調べ学習に取り組む、情報をどう読み取ったかについて交流するなど対話活動を展開する。
算数	・全体的に基礎基本の計算をする知識・技能は定着してきている。 ・文章をよく読み、意味を理解して立式することが苦手な児童が多い。 ・問題を多角的に考えたり、言葉で説明したりする力が弱い。 ・4年生までの学習の積み重ねが不十分な児童がかる。 ・算数が得意な児童は、自分の考えを伝え合うなどして、意欲的に話し合い活動をしている児童が多い。	◎自分の考えをもち、友達同士の学びを大切に意欲的に取り組ませるようにする。 ・絵図、式、言葉などで多角的に自分の考えを説明することを促し、多様な方法を全体で価値づけることで、思考・表現の手段を増やす。特に数直線、見積もり、計算のきまりを手段として定着させる。 ・自力解決の時間を十分に確保し、その後、友達同士で考えや解き方を共有し合う。知識を積み重ねていけるようにする。 ・学んだことを言語化させる「ふりかえり」を意識的に書かせる。 ・交流やグループの学び合いの機会を増やして、自分たちで解決する学びを大切にする。
理科	・実験や観察に興味があり、協力して学習に取り組むことができる。 ・身の回りの自然現象に対して、興味をもつ児童が多い。 ・実験や観察を通して学習したことが正確な知識として定着しつつある。 ・実験や観察の結果から、どのようなことが言えるのかについて考察する力を高める必要がある。	◎実験や観察を行うときには、見通しをもって課題解決できるように取り組ませる。 ・条件を制御すべき要因を意識し、計画的に観察、実験が行えるようにさせる。 ・実験や観察をした際には、結果や様子を言語化するようにする。 ・身近な生き物の世話や身の回りの自然現象に対して、興味をもたせる工夫をする。
音楽	・積極的に歌い、自然で無知のない発声で音程や響きに気を付けて、気持ちよく歌うことができる児童が多い。 ・聴き合うことを大切にしながら、向上心をもって自主的な音楽活動ができる。自分の考えをもっているが、相手に伝える力が弱い面もある。 ・曲に合わせて指揮や身体表現をし意欲的に取り組んでいる。	◎歌唱を通して音楽の特徴をつかみ、児童一人一人が協動的に取り組む、楽しく音楽活動に取り組む音楽の表現の幅を広げる。 ・選択肢を与えたり発問を工夫して、児童が「こうしたい」という思いをもてるようにする。 ・鑑賞では、感じたことを言葉にすることができるように、感じ取ったことをペアやグループで交流し、学習者用端末を活用して全体で共有する機会を増やす。
図工	・自分の感覚や行為を通して、造形的な特徴をおおよそ理解することができる。材料や用具を活用し、表し方を工夫して、創造的につくることができる。 ・友達の作品から見方や感じ方を深め、感想を発表できる。 ・主体的に表現したり鑑賞したりする活動に取り組むことができる。	◎表したいことを深めることができるような活動を設定する。 ・題材の一番大切にしたい部分を丁寧に伝え、自分の中での感じ方や考え方を深められるようにする。 ・友達や他学年の作品を鑑賞する時間を設定し、そのよさや美しさを感じられるようにする。
家庭	・基礎的な技能の習熟に差がある。 ・習得した知識、技能を家庭生活で生かそうとする児童が多い。 ・新たな単元や活動に対して、意欲的に取り組む児童が多い。	◎活動を見通しながら、生活経験をもとにしてよりよい家庭生活について考えさせる。 ・技能を身に付けられるように、体験的な学習を継続する。 ・実際の家庭生活に生かせるよう、系統性を意識した指導計画を作成することで、日常生活への関心を深め、実践的な態度を育てる。

体 育	・領域によって技能の定着に個人差がある。 ・自らの課題を選び、課題解決のために練習の場を選んだり、考えたことを友達に伝えたりすることができる児童が多い。 ・運動が好きで積極的に取り組む児童が多い。 ・ワークシートを上手に活用できる児童とできない児童がいる。	◎単元ごとにワークシートを使って、自分の能力に合わせて活動できるようにする。 ・運動する力を高めるため、自分の課題に合った練習の場を選択し、友達同士アドバイスする時間を設ける。 ・ワークシートの活用の仕方について、再度指導し、徹底する。 ・感覚づくりの運動を積極的に取り入れ、運動の基礎的感覚を形成させる。
総 合	・自分自身で、興味関心のある題材を見付け、課題を設定できる児童が多い。 ・タブレットを使って自分の思いを表現することができる児童が多い。 ・タブレットを使って友達と協働しながら取り組むことができる。	◎問題解決後、児童間で伝え合う活動を通して、単元を振り返る活動を大切にし、新たな課題につなげさせていく。 ・単元ごと見通しをもって学習し、自己の生き方に結び付けて考えられるようにする。協働して作業する時間を多く設定していく。 ・調べ方、まとめ方のスキルを身に付けさせるために、児童間で交流する時間を設ける。
特 活	・当番活動に意欲的に取り組む児童が多いが、個人差がある。 ・学級での話し合いでは、活発に発言する児童が多い。 ・少人数で話し合う時間を取り入れながら、議題について考えている。 ・委員会活動や学校行事に熱心に取り組む児童が多い。 ・自主的に工夫して取り組む態度をさらに向上させる必要がある。	◎よりよい生活築くために、自分の考えをしっかりともち、考えを広げたり深めたりすることで、学級や学校での生活に役立てることができるようにする。 ・活動を自分事として捉えるために、児童間で交流をしたり、振り返ったりできるようにする。 ・振り返りの機会を定期的に設けたり、他の児童のよさに気付かせる機会を設ける。
道 徳	・教材をもとに、自分の考えをまとめることができる。 ・自分の考えを友達と交流し、深めることができる。 ・価値項目は理解しているが、自分のこととして捉え、生活と結びつけて考えることに課題が見られる。	◎「B主として人との関わりに関すること」、及び「主として集団や社会との関わりに関すること」を重点に指導する。自分のこととして課題を捉えられるようにする。 ・児童が多面的・多角的に考えられるような発問を構成しながら、道徳的価値の理解が深められるようにする。 ・自分の考えを表現させる活動を充実させ、自分の考えをより明確にしたり、自分の道徳的な成長を実感したりできるようにする。
外 国 語	・基本的な挨拶や単元で学習した内容(12カ月、1週間、教科)についての表現に親しんでいる。 ・外国語を使い、自分のことをスピーチする力を向上させる必要がある。 ・外国語学習に対するモチベーションが高い児童がとて多い。	・身体を動かしたり、ゲームなどを取り入れたりして、楽しみながらスピーチなどの自己表現活動に臨めるようにする。 ・一人一人が発話できる活動を意図的に取り入れ、重要な表現が確実に身に付くようにする。